

Times

2020 Autumn
Vol. 34

—KANTO NEUROSURGICAL HOSPITAL— Public Relations Magazine

TOPICS

- ゆうゆうバス停留所開設
- 第32回救急医療シンポジウム
- 第18回日本臨床医療福祉学会
- 新任医師紹介、退任医師のお知らせ
- 新型コロナウイルス対策
- 顔面のびくつき
- 栄養課の健康レシピ
- データで見る関東脳外
2020年5月～9月



齊藤医師撮影「槍沢天狗池」

ゆうゆうバス「関東脳神経外科病院」停留所が開設されました！

当院はJR駅から遠く、最寄りの路線バス停留所からも約8分の距離に位置しており、来院者の方々にご不便をおかけしておりましたが、9月1日より、当院正面玄関前に熊谷市循環バス「くまびあ号」が停車することになりました。

熊谷駅～籠原駅間を毎日8便運行しておりますので、是非ご利用いただきたいと希望します。

料金は100円、車椅子での乗車もできます。



脳ドックがネット予約で簡単に

脳ドックがネット予約できるようになりました。HPにあるバナーからアクセスしてください。



脳ドック
空き状況確認・インターネット予約
ご予約はこちら



▲HPはこちら

第32回救急医療シンポジウム

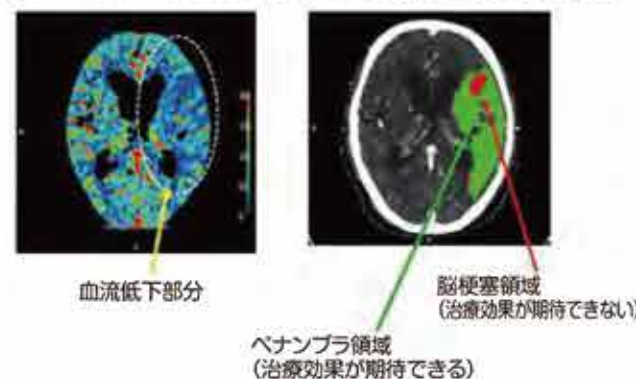
2020年9月11日、第32回救急医療シンポジウムが行われ、当院からは外来・手術室看護師の椎名恵さんが「血栓溶解・血栓回収療法におけるプロトコル導入後の評価」を発表しました。新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となり、院内から発表を視聴しました。以下、研究の概要です。

「血栓溶解・血栓回収療法におけるプロトコル導入後の評価」概要

血栓溶解療法と血栓回収療法にプロトコルを導入し2年経過。脳卒中ガイドラインでは治療開始が早いほど転帰は良好と言われており、評価の結果いずれも治療開始時間は短縮できていた。ただし血栓回収療法についてはMRIが必要なため検査時間が長くなってしまふ。そこで今年5月に導入した最新鋭CT装置で時間短縮、簡便

性に優れたCT Perfusion撮影を行い、脳血流評価をしMRIを省略することで撮影時間を15分短縮。さらにすでに脳梗塞に陥っている部分と、これから脳梗塞になると予測される範囲がごく短時間で評価できるようになった。(図1) 今後はスタッフの情報共有および経験値の均一化により、病院全体のレベルアップを図ってきたい。

図1 <CT Perfusionによる実際の血流評価画像>



左の画像の白枠で囲ってある部分が、血流が低下している部分。脳血流量、脳血液量、平均通過時間を評価可能。これらの情報を自動解析することで、右の画像のようにすでに脳梗塞に陥っている部分が赤く表示される。また、血栓を取り除き脳血流が回復することで脳梗塞を防げるペナンプラ領域は緑に表示。つまりこの症例のように緑のペナンプラが広範囲で、脳梗塞になっている赤い部分が少ない場合は回収療法の効果が高いと判断できる。これにより今までより早く、より正確に回収療法の効果を予測することが可能になる。

第18回日本臨床医療福祉学会



2020年10月9日、10日仙台で行われた第18回日本臨床医療福祉学会に参加してきました。当日は台風接近に伴いあいにくの雨模様でしたが、当院からは栄養課と医事課が1年間の研究成果を発表してきました。こちらも新型コロナ

ウイルスの影響で会場開催+オンライン開催となり、例年に比べ来場者数は大幅に少なくなっていました。それでも2人の発表では多くの質問が飛び交い、よい経験となりました。また清水理事長も大会場で座長を務めました。

新任医師紹介



令和2年10月より着任しました。今年で医師4年目になります。まだ経験も浅く未熟ですが、幅広く臨床経験を積み知識や技術の向上を図れるよう精進してまいります。微力ながら地域医療に貢献したいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

趣味
キャンプ、登山、ドライブ、旅行、写真

基本的に体を動かしたり、出かけることが好きです。

退任医師のお知らせ

齋藤 総医師

1年間大変お世話になりました。短い間でしたが、職場の皆様に恵まれて楽しく充実した期間となりました。関わって頂いた皆様への感謝を胸に、ここでの経験を活かして今後も精進していきたいと思っております。本当にありがとうございました。

齋藤医師は市立甲府病院へ異動となりました。

新型コロナウイルス対策

全国で新型コロナウイルスCOVID-19が流行しています。当院では対策として患者さんへの手指消毒・マスク着用をお願いをはじめ、ロビーの席を離すなどしています。また、外来入り口に体温検知システム(写真)を導入し、熱が高い際には職員による再測定を行い、それでも高い場合は、電話再診や発熱外来対応を行っています。

職員玄関にも同様の検温システムを設け、熱発者が勤務することがないように徹底したり、体調不良時には無理をしないよう促し、まわりでサポートできる体制や休みやすい環境を整えています。

これからの時期はインフルエンザも流行するため、手洗いや消毒はもちろん、体調管理はしっかり行っていきたいですね。



顔面のびくつき 院長 清水暢裕

自分の顔(目の周り)がびくつき症状を自覚された経験がある人は意外と多いのではないのでしょうか。今回は顔が自分の意思と無関係(不随意)にびくつき病気を紹介します。

最も多いのは**顔面ミオキニア**とよばれる病態で、疲労やストレスなどが原因と言われています。このびくつき(痙攣)は通常短時間で片方のまぶたの下の筋肉がピクピク、ピクピクッとします。何かに集中しているときや緊張しているときより、ほっと一息している時に痙攣がでやすいです。通常数日から数週間、なかには1-2ヶ月続きますが気がついたらなくなっています。そのため痙攣しているときは煩わしいものの治療の必要はありません。

これとは別に**片側顔面痙攣**と呼ばれる病態もあり

ます。こちらも片方のまぶたの下の筋肉から始まることが多いですが、顔面ミオキニアとは異なり徐々に痙攣は強くなります。様子を見ていても、多少軽快することがあっても改善はしません。また、口の周りの筋肉の痙攣も伴ってきます。こちらは緊張したり顔に力が入る状況(あるいは自分で強く目を閉じるなど)で痙攣しやすくなります。治療方法としては薬(あまり効果は期待できません)、ボトックス注射(効果は3-4ヶ月持続しますが元に戻ります)、手術で神経への血管圧迫を解除する微小血管減圧術(根治治療ですが他の治療より危険性は増します)などがあります。

他にも鑑別すべき病態があります。相談する診療科は脳神経外科、神経内科、眼科になりますが、気になるようであればお気軽にご相談ください。

栄養課の健康レシピ

鮭のきのこソース



材料(2人分)

・鮭(70g)2切れ	・こしょう少々
・塩少々	・油小さじ2
【ソース】			
・玉葱1/4個(スライス切り)	・コンソメ小さじ1
・マッシュルーム20g(スライス切り)	・小麦粉大さじ1
・しめじ20g(小房にする)	・牛乳100ml
・油小さじ2	・パセリ適量
・塩・こしょう少々		

エネルギー...264kcal タンパク質...18.9g 脂質...15g 塩分...1.7g (1人分の値)

作り方

- ①鮭は塩こしょうをふって下味をつけておく。
 - ②フライパンに油を熱し、中火で鮭の両面を色が変わるまで焼く。
 - ③皿に盛り付ける。
 - ④以下で作ったソースをかけ、パセリをふりかける。
- ソースの作り方
- ①フライパンに油を熱し、玉葱を炒める。
 - ②しんなりしてきたら、マッシュルーム、しめじも加え炒める。
 - ③塩・こしょう・コンソメを加える。
 - ④小麦粉を入れ、白くなるまで炒める。
 - ⑤牛乳を入れて、とろみがでるまで煮る。

鮭に含まれるアスタキサンチンというポリフェノールは、高い抗酸化作用があり、動脈硬化の予防に効果があると言われています。また鮭ときのこに豊富に含まれているビタミンDは、体内に侵入したウイルスや細菌などに対し過剰な免疫反応を抑制し、必要な免疫機能を促進します。ビタミンDは日光にあたる事で体内で作れますが、日照時間が短くなる冬は食事でもビタミンDを蓄え、インフルエンザを予防しましょう。

データで見る関東脳外 2020年5月~9月

	5月	6月	7月	8月	9月
新・初診(人)	414	463	514	451	503
再診(人)	3313	3879	4098	4021	4047
計(人)	3727	4342	4612	4472	4550
入院数(人)	119	115	149	147	142
紹介数(件)	96	115	111	114	109

	5月	6月	7月	8月	9月
救急車搬入(台)	93	85	104	103	95
手術(件)	18	23	23	12	22
血管内治療(件)	3	4	2	0	1
サイバーナイフ治療(件)	71	112	102	122	114

新型コロナウイルスの影響で昨年同月に比べ依然として全体的に減少傾向ですが、再診患者数は徐々に戻りつつあります。

編・集・後・記

オンラインによる学会や会議が増えています。みんなが初めてのことで不馴れな場面もありますが今のところ順調です。オンライン会議にしる、体温検知システムにしる、今年は画面上に映る機会がぐんと増えました。“画面映え”するアイテムも気になるそうです。



医療法人 啓清会 関東脳神経外科病院

Times Vol.34

発行:広報委員会

企画・編集・製作:医療法人 啓清会 関東脳神経外科病院

〒360-0804 埼玉県熊谷市代1120

Tel.048-521-3133 Fax.048-524-6190

E-mail:keishin@ps.ksky.ne.jp

HP:http://kantounouge.com

